



発行日 令和元年12月23日



No. 9

地域に支えられながら いっぱい頑張った子どもたち ～ この頑張りへの称賛とともに… ～

校長 宮 居 伝

一年のなかでいちばん長く、また、いろいろな取組やチャレンジする機会も多く、子どもたちの活躍や頑張り、たくさん見られた第二学期が終了しました。ご家庭でも、お子さまの成長を実感された出来事があったのではないのでしょうか。

一方、子どもたちにしても、一日一日の変化や進歩は、はっきりとはわからなくても、二学期が始まったあの暑い時期の自分と、寒さが厳しくなってきた今の自分とを比べると、自分の成長を振り返ることができることでしょ。

このような子どもたちの成長の背景には、日々の学校での学びだけでなく、保護者の皆様の大きな支えがあったことは言うまでもありません。そしてまた、地域の多くの方々に子どもたちの学びを支えていただきました。

たとえば、「芝生応援隊やスクールガードのみなさまなどに、学習環境の整備をはじめ、学習引率ボランティアや登下校の安全確保に向けた地域での取組を進めていただいていること」「毎朝の継続したPTA挨拶運動とともにマラソン大会の交通立哨など、保護者ボランティアの方々にも多数ご協力をいただいていること」を忘れてはならないと思っています。ほんとうにありがとうございます。

ところで、ある方が広報誌の巻頭に次のようなことを書かれており、ぜひ大切にしたいことだと感じましたので紹介します。

「認めて育てる」「リスペクト」の姿勢で

…前 略…

さて、ある有識者の方が、次のような言葉を述べておられます。

「心のぬくもりは心を包み込んでもらったときに感じます。私の側に立って話してもらえると私を丸ごと認めてもらえるとき 自分以上に私のことを思ってもらえるとき心が自然とあたたまります。どうしてこのような対応ができるのでしょうか。相手を信頼しているからです。だれもがよりよく生きようとする心をもっています。そのことを信じるからこそ、心のぬくもりを伝えることができるのです。このことを一言で言えばリスペクト（敬意）です。一人一人をかけがえのない存在として敬うことです。愛情を注ぐとは、よりよく生きようとする心を信じ、一人一人へのリスペクト（敬意）を深めていくことと言えるのです。」

「認めて育てる」と「ほめて育てる」とは少し違うように思います。「子どもを無条件に人格ある存在として尊重し、長所も短所も含めて丸ごと受け止める。その上で、子どもの個性や持ち味、発達段階や可能性に合わせてほめ、叱り導き育む」ことが「認めて育てる」であると考えます。そうした育みの中で子どもは、自尊感情を高め、主体的な姿勢で物事に向き合うと思うのです。新しい時代令和にあっても、この「認めて育てる」「リスペクト」の姿勢を大人が共有し、次代を担う子どもたちを豊かに育てていきたいものです。

これを書かれた方と、先日、お話をすることがあり、学校だより第2号（令和元年5月13日発行）で、マラソン選手の高橋尚子さんや有森裕子さんを育てられた小出義雄さんの指導について触れたことを思い出しました。

それは、「小出監督は『ほめて育てる』『良さを伸ばす指導』と、よく言われていましたが、その大前提には、指導を受けている選手が『自分は認められている・自分には良さがある・私は大切な人間である』との思いがあるからこそ、さらに伸びたのだと思います。」と書かせていただいたことです。

「認めて育てる」「リスペクト」の姿勢を大人が共有し、次代を担う子どもたちを豊かに育てていきたいとの思いを、日々、大切に子どもたちに接していかなければと改めて感じました。

この二学期、たくさんたくさん頑張った子どもたち。この頑張りへの称賛とともに、社会へ出るまでに身に付けておかなければならないことにもまた、きちんとした声かけを、学校・家庭・地域でしていくことが、子育て・教育への責任でもあると考えています。

年末・年始を迎えるこの時期は、このような学びの絶好の機会でもあるように思います。社会に出て行く子どもたちのために。

明日から冬休みに入り、子どもたちが地域でお世話になります。地域の宝である子どもたちを、地域で支えながら育てていただけますよう、子どもたちへの声かけや目配り、引き続きのご支援をよろしくお願いいたしますとともに、どうぞよいお年をお迎えください。



5・6年生の総合的な学習での学びを能登川博物館と能登川コミュニティセンターに掲示しています。



6年生の子どもたちが制作した『近江だるま』を能登川博物館に展示しています。